

精神疾患を正しく理解する

精神障がい正しい知識の普及により、精神疾患の予防や早期発見・早期治療を目的に、定期的な情報発信をしていきます。今回は「統合失調症」についてです。

○ 統合失調症の原因

脳内で情報を伝える神経伝達物質のバランスが崩れることや、大きなストレスがかかることなどが関係していると言われており、約 100 人に 1 人の割合で、10 代から 30 代での発症が多いとされています。

○ 統合失調症の症状

以下の様子が見受けられる場合は、1 日でも早く治療を開始した方が回復も早く、症状も軽くすむため、早期に専門医との相談をお勧めします。

- ① 陽性症状…妄想や幻聴、幻覚、思考障害が起こる
- ② 陰性症状…感情が乏しくなったり、意欲の低下などが起こる
- ③ 認知機能障害…記憶力や集中力、判断力の低下などが起こる

○ 統合失調症の治療

統合失調症の治療では、①薬物療法、②リハビリテーション、③環境調整の 3 つが必要不可欠で、特に回復期には、リハビリテーションに取り組み、環境を整えることがその後の社会復帰に大きく関わってきます。

○ 周囲のみなさんに知ってほしいこと

① 病気を正しく理解する

精神疾患は、周囲の人も受け入れがたく、戸惑いや怒りを覚えるかもしれませんが、周囲のみなさんも病気を理解して一歩踏み出すことが治療や回復の手助けになります。

② 本人もつらい思いをしている

病気のために状況把握が苦手になる、突発的な出来事に対応できない、言葉の微妙なニュアンスを理解できない、同じ失敗を繰り返しやすいなどの特徴があります。どんなことに戸惑っているか、周囲のみなさんが配慮することが大切です。

③ 周囲のみなさんの「見守り」が本人を助ける

病気によって生活機能や社会適応能力が低下しているときには、つい世話を焼きたくなりますが、過干渉は回復の妨げになります。すぐに手を貸すのではなく見守り、本人が「できること」「できないこと」を見極め、できない部分を補う役割に徹しましょう。